

視察・研修等報告書

平成 29 年 6 月 18 日

北上市議会議員 高橋 穂至 様

北上市議会議員 星 敦子

次の 視察 ・ 研修 について結果を報告します。

期間(期日)	平成 29 年 5 月 28 日 (日)
視察先/視察内容 または研修事項	「ひきこもり支援で地域に力を！」講演会 講師:秋田県藤里町社会福祉協議会会長 菊地 まゆみ さん 場所:調布市市民プラザあくろすホール

[内容及び所感]

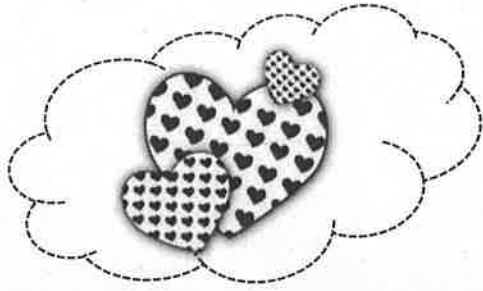
引きこもりは、日本の地域全体にみられる普遍的な問題であるが、藤里町の社会福祉協議会では、全国に先駆け、2006年から実態調査を実施。18歳から55歳までの町民1293人の8.74%にあたる113人が、長年、仕事に就けない状態で自宅などに引きこもっていることが明らかになった。しかも、そのうち40歳以上は、52人と半数近い。年齢別の内訳をみると、40歳以上49歳以下が40人、50歳以上55歳以下が12人に上るなど深刻なものであった。その後、就労支援や機能訓練、地域の人たちとの交流の場で福祉の拠点となる施設『こみっと』を事業化するため、地域で孤立する人たちのニーズを把握しようと、2010年から訪問調査した。いわゆる「藤里方式」である。さらなる調査で、実際には内閣府が定義した「39歳以下」に当てはまらない、支援の対象からこぼれ落ちた人たちが「放置されている」状況が浮き彫りになった。

そこで、単なる居場所ではなく、趣味を楽しみ機能訓練しながら就労できる多機能的施設を立ち上げる。「こみっと」は、県の発電施設を町が購入し、社協に無償で貸与したもので、2010年4月にオープン。各種の共同事務所、サークル室(日中活動支援室)、お食事処(就労支援)、調理室(就労支援)、会議室(機能訓練室)、相談室、サークル室などを整備。事務局は、社協ではなく、共同事務所にあり、老人クラブや親の会、ボランティア団体協議会、身体障害者協議会などの13~15団体が運営協議会をつくって運営している。大きな特徴は、支援する側とされる側の区別をつけず、同じ事務所で共同しながら活用し、補完し合いながら、選択・自己決定のための体験の場としているところである。

翌2011年度には、「くまげら館」という自立訓練・生活訓練ができる宿泊棟を開設し、また、当町の特産品である白神舞茸をふんだんに使った「舞茸キッシュ」の商品化にこぎつけるなど、ここまで多くの成果を上げてきた。

社会福祉協議会がコーディネート機能を担うことで、政策・事業のマネジメントが、ワンストップ化されており、情報収集や事業展開が円滑に行われていた。さらに地域の住民が主役となって、生涯現役の活躍機会を提供している。ひきこもりに対する固定観念を払しょくし、持っている能力、個性、意欲を最大限に引き出し、社会で働くことを通じて自立を支援していく、それらが地域の活性化につながっていく取り組みは、全国的な評価を集めている。

厚生労働省による国レベルのひきこもり支援の政策が検討されるよりも早く、資源の限られる小規模自治体での先進モデルは、当市においても大いに参考となる。



全国フェミニスト議員連盟

2017年度総会&講演会

ひきこもり支援で地域に力を！

2017年5月28日(日)

調布市市民プラザあくろすホール

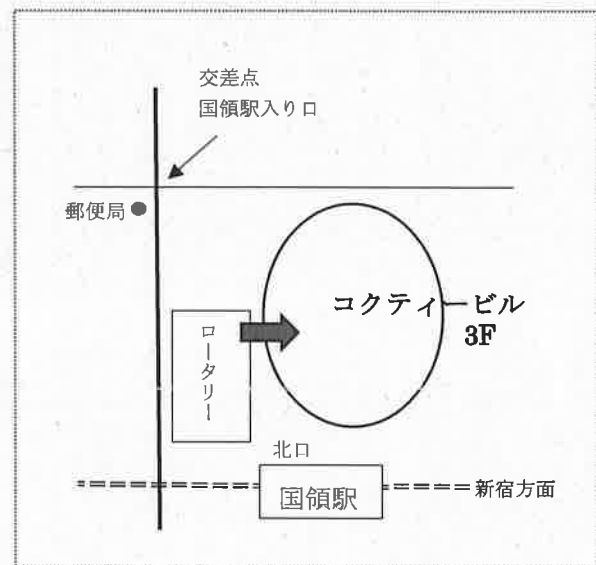
京王線国領駅北口下車1分
調布市国領町2-5-15 (コクティビル)

総会 13:15~14:15

講演会 14:30~16:30

資料代 500円

※総会は会員でない方も傍聴いただけます
※講演会はどなたでもご参加いただけます



講師 菊池まゆみさん 秋田県藤里町社会福祉協議会会長

ひきこもりの若者たちのパワーをまちおこしに活かす——逆転の発想で実を結んだ藤里町社会福祉協議会の取り組みについて、お話を聞きます。

一人ひとりが役割を持ち、つながりあい、知恵を出し合い、支え合う。白神山地の麓での実践から、地域福祉の可能性を探ります。

終了後、懇親会を予定しています。

当日の申込みも可能ですが、
事前にご連絡いただけるとたすかります。

全国フェミニスト議員連盟事務局
〒253-0003 茅ヶ崎市鶴が台14-5-202 (小磯)
info@afer.jp

日本の政策決定の場である議会にあまりにも少ない女性議員をふやしていくため、1992年に全国の市民や議員がつくった会員組織です。現在会員約200名